

領域3

オープンアクセスとセルフ・アーカイビング に関する著作権マネジメント・プロジェクト

主担当機関	筑波大学
連携機関	千葉大学
	東京工業大学
	神戸大学

所属：筑波大学附属図書館

著者名：真中 孝行

連絡先：scpj@tulips.tsukuba.ac.jp

概要

本プロジェクトでは、機関リポジトリのコンテンツ拡充及び日本の学術情報流通の基礎データを提供するために、「学協会著作権ポリシーデータベース」（以下、SCPJ データベース）のデータ更新及び機能拡充を行うとともに、関連団体及び学協会との情報共有・意見交換を行い、オープンアクセス（以下、OA）への理解を促進し、各学協会の OA 方針検討を支援することを目的としている。

SCPJ の系譜

- 平成18年度国立情報学研究所 CSI 委託事業
「著作権ポリシー共有機能」
筑波大学，神戸大学，千葉大学
- 平成19年度国立情報学研究所 CSI 委託事業
「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト」
筑波大学，千葉大学，神戸大学
- 平成20～21年度国立情報学研究所 CSI 委託事業
「オープン・アクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト（SCPJ プロジェクト2）」
筑波大学，北海道大学，千葉大学，東京工業大学，金沢大学，大阪大学，神戸大学
- 平成22～24年度国立情報学研究所 CSI 委託事業
「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト（SCPJ プロジェクト3）」
筑波大学，千葉大学，東京工業大学，神戸大学

目次

1. 背景	1
2. 実施内容	1
2.1 学協会著作権ポリシー調査	1
2.2 学協会関係者等との意見交換・情報共有	4
2.3 講師派遣	4
2.4 SCPJ データベース機能拡充	4
3. 成果・波及効果	6
3.1 学協会著作権ポリシー策定の支援効果	6
3.2 SCPJ データベースの認知度向上と共有データベースの整備	7
4. 課題及び課題解決へ向けての展望	7
4.1 学協会のオープンアクセスへの認知度向上	7
4.2 機関リポジトリへの SCPJ データベースを利用した学術雑誌掲載論文の登載率向上	8
5. 今後の計画	8
5.1 データベースの整備・拡充の日常業務化	8
5.2 SCPJ の活用によるコンテンツ充実のための広報活動	8
5.3 その他のオープンアクセスに関する情報収集・広報活動	8
SCPJ 関係資料	8
講演資料・文献等	9
「2012年8月30日付け SCPJ の今後に関するアンケート調査結果」	10

1. 背景

日本最初の機関リポジトリが千葉大学で2004年度に公開されて以来、多数の機関リポジトリが国内に構築された。登録されるコンテンツの種類は紀要論文、講義資料、研究報告、学位論文といった様々な種類がある。そのなかでも学術雑誌掲載論文の登載にあたっては特に著作者と著作権者が別である場合が多く、著作者自身の意思のみで登載を進めることができず、著作権者から公衆送信権と複製権行使の許諾を受ける必要がある。

著作権の帰属や著作物の利用に関する事項を調べる作業は、多くの時間と労力を必要とする。

日本で機関リポジトリが構築され始めた頃、欧米出版社のOA方針については英国Nottingham大学の運営するSHERPA/ROMEOを利用してリポジトリ登載の可否の確認を集約して行うことができた。しかし国内で発行された学術雑誌については同様のデータベースが存在していなかった。

日本の学協会のポリシーは欧米のケースと異なり、著作権が出版社ではなく学協会に存することが多く、出版社ベースで方針を確認する場合に比べて労力をより多く必要とする状態であった。

これら学協会に対する調査が2005年度に国立大学図書館協会学術情報委員会の小委員会であるデジタルコンテンツ・プロジェクトにより実施された。このアンケート調査は「著作権の取り扱い等に関するアンケート調査」

(以下、DCP調査)と呼ばれ、学会名鑑2004～2006年版に掲載された1,730学協会を対象に郵送で行われた。50%近くの回答率であったが、レポートを発表するに留まったため、これらを利活用する方法としてデータベース化して公開することが求められていた。

この調査を継承、発展するものとして2006

年のCSI委託事業募集に対して個別に応募した筑波大学、千葉大学、神戸大学の3大学が連携分担するSCPJプロジェクトが発足し、2008年度からは東京工業大学を加えた4大学により継続された。その後引き続き第3期(2010～2012年度)の活動が行われてきた。

2. 実施内容

2.1 学協会著作権ポリシー調査

学協会著作権ポリシーをデータベース化するために調査を行った。

著作権ポリシーは機関リポジトリを始めとしたインターネット上で無料で公開すること(オープンアクセスという)についての著作権者の許諾状況を表している。大きくは以下の4つのパターンに分けられる。

1. 査読前・査読後のどちらでもよい
2. 査読後の論文のみ認める
3. 査読前の論文のみ認める
4. リポジトリへの保存を認めていない
5. 検討中・非公開・無回答・その他

それぞれ許諾状況を色で対応させ、1からGreen, Blue, Yellow, White, Grayで表し、著作権ポリシー調査の際にもこの用語を使って学協会に照会している。

調査方法は、学会名鑑に掲載された学会を中心に連絡先を調査し、学会事務局に対して郵便により照会した。また、すでに学協会Webサイトも同時に調査し、公開規則URLとともにデータベースに反映した。電子メールアドレスも把握し、電子メールによる照会も行なっている。

学協会事務局は固定した連絡先を持たずに、大学間を数年単位で移動していることが多く、それをフォローすることも業務のひとつであったが、更新には困難な部分もあった。主に事務局の移転情報はWebサイトなどを参照することにより行ったが、ある年度においてはサイトが公開されていなかったり、学協会の主体が本当に連続しているか、

言い換えれば学協会の公式サイトとはみなしにくい個人がボランティアで作成した Web サイトとおもわれる場合も多数あった。学協会の連絡先情報は当然ながら前任者から得られる情報がもっとも簡単であり、かつ確実なものとして利用できた。

査読付き論文を対象とした著作権ポリシー

SCPJ サイトからの著作権ポリシーの連絡画面

<<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/question>>

The screenshot shows the SCPJ (Society Copyright Policies in Japan) website. The main heading is '学協会著作権ポリシーデータベース' (Society Copyright Policies in Japan). Below the heading, there are buttons for '学協会の方' (For Society) and '回答の方' (For Answer). A navigation bar includes 'ヘルプ' (Help) and 'TOP PAGE | SOPJについて | 論文の著作権'. The main content area is titled '著作権ポリシーの連絡' (Contact Copyright Policy). It features a form with the following fields and options:

- 学協会名** (Society Name): Text input field.
- 氏名** (Name): Text input field.
- 研究分野** (Research Field): Multiple choice options including: 未分類, 文学, 哲学, 教育学, 心理学, 社会学, 史学, 法学, 政治学, 経済学, 商学, 経営学, 工学, 農学, 医学, 歯学, 薬学, 理学, 工学, 農学, 医学, 歯学, 薬学, 理学.
- 著作物の種類** (Type of Work): Text input field.
- ポリシー** (Policy): Text input field.
- 出版活動の公開可否** (Whether to publish the activity): Text input field.
- 公開場所** (Publication Location): Text input field.

There are also checkboxes for '学協会に所属' (Belong to Society), 'Green (査読付き・査読済みでも可)' (Green (with/without peer review)), and '査読済み・査読済み' (Reviewed/Reviewed). A '送信' (Send) button is at the bottom right.

平成22年度

平成22年12月10日

国立情報学研究所・国立大学図書館協会共催シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」の開催案内を本プロジェクトで調査・把握している2,230の学協会のメールアドレスに送付。

国立大学図書館協会学術情報委員会と連携し、国内2,462学協会にSCPJ調査協力依頼及び機関リポジトリ広報資料(リーフレット)

データベースであるため、学会名鑑が査読誌を持つ学会を対象としているものとして調査を行った。

回答は郵送及び電子メールに調査票の回答を添付するか、Webフォームによる方法を選択できる。

を郵送。リーフレットはSCPJサイトで公開。

平成23年度

著作権ポリシー Gray (検討中・無回答)の1,388学協会に対する悉皆調査。

学協会 Web サイト調査及び欧文誌出版社のポリシー調査に基づく内容確認依頼を合計1,647学協会に対してメール及び郵送で実施。

NII学協会情報発信サービスが停止する予定にともない、これを利用する525学協会サ

リーフレット国立大学図書館協会学術情報委員会「機関リポジトリとは？／機関リポジトリFAQ」 <<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/gakkai.html>>

学協会のみなさまへ

機関リポジトリとは？

機関リポジトリとは、研究者が自身の著作論文をインターネット公開する、所属機関によって構築されたウェブサイトです。以下は一例で、国立大学だけで、76の機関リポジトリが構築されています。



福井大学 慶応大学 慶応大学 慶応大学 慶応大学 慶応大学

学術研究の成果は人類の共有資産です。
研究者が自らの学術的知見を広く世界に公表することを支援するために、平成23年2月現在、国内では196、海外では1,851の大学・研究機関等がこうしたウェブサイトが整備されています。

学協会にとっての機関リポジトリ

機関リポジトリの読者は、大学・研究機関の所属研究者以外に、産業界や一般市民層にも広がっており、Google等のインターネット検索からのアクセスが多数を占めます。



学協会としての社会貢献のために、また、学協会刊行の論文誌の購読率に留まらず、自らの学術的知見を世界に公表したいという学協会員の希望に応じ、海外では62%の主要

リーフレット「著作権ポリシーの公開と共有／著作権ポリシー検討フロー」 <<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/gakkai.html>>

学協会のみなさまへ

著作権ポリシーの公開と共有 ー著作権ポリシー調査にご協力くださいー

 学協会が学術出版の多くを占める海外と異なり、日本の学術出版においては学協会が重要な役割を担っており、多くの学術論文が学協会誌に掲載されています。それでは、研究者が自分の執筆した学術論文を利用したいとき、その論文の著作権はどこに帰属するのでしょうか？

著作権ポリシーを明示する必要性

急速なインターネットの普及とIT技術の進歩により、学術情報の流通は大きく変化しています。今や研究者にとって論文をネットで検索・入手することは日常茶飯事といえるでしょう。また、自らの研究成果を広く世界に発信したいという研究者の要望に応じて、大学等の国内外の研究機関は、インターネット上の電子書庫「機関リポジトリ」の構築を進めています。(2011年2月現在、国内196、海外1,851)

学術論文をインターネット上で公開するためには、著作権者に複製権および公衆送信権の利用許可を得ることが必須です。このような流れに対して、一部の学協会では、あらかじめ学協会誌に掲載された論文について著作権の方針「ポリシー」を定め、そのポリシーの下に雑誌以外での公開等の利用の是非を決定しています。

学協会著作権ポリシー (Society Copyright Policies in Japan) 調査にご協力ください

研究者や機関リポジトリ担当者は学術論文を機関リポジトリに登録したいと考えた時、毎回、学協会側にその可否をお伺いしてきました。このような状況はたびたび問い合わせを受ける学協会側にとっても、研究者・各機関の担当者にとっても煩わしいものではありません。



そこでSCPJプロジェクト(国立情報学研究所CSJ委託事業)では、学協会側の著作権ポリシーをお伺いし、調査結果をSCPJデータベースとして公開しています。プロジェクト開始



イトの移転確認作業を実施。

平成24年度

著作権ポリシー Gray（検討中・無回答）の1,498学協会に対する悉皆調査。

学協会 Web サイト調査及び欧文誌出版社のポリシー調査に基づく内容確認依頼を合計1,573学協会に対してメール及び郵送で実施。

平成23年度末の NII 学協会情報発信サービス停止にともない、これを利用していた525学協会サイト中106学協会の Web サイト URL を更新。9学会の Web サイトの存在が確認できず。

2.2 学協会関係者等との意見交換・情報共有

平成22年度

平成22年8月24日

第3回 SPARC Japan セミナーにおいて発表と協力依頼チラシの配布。パートナー学会との懇談に出席し、意見交換。これまでの調査に対する学会からの質問・意見を踏まえて、SPARC Japan パートナー誌を刊行する STM 系3学会への OA 方針に関するインタビュー実施。

平成23年2月3日

（社）日本アレルギー学会にインタビュー実施。

平成23年2月8日

（社）応用物理学会にインタビュー実施。

平成23年度

平成23年11月18日

中西印刷株式会社 NACOS 学会事務センター訪問。意見交換及び学協会への働きかけを依頼。

2.3 講師派遣

平成23年度

平成23年9月8日

機関リポジトリ新任担当者研修（広島会場）

平成23年10月6日

機関リポジトリ新任担当者研修（NII 会場第1回）

平成23年11月18日

「近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」第3回連続研修会（京都ノートルダム女子大学）

平成23年11月21日

機関リポジトリ新任担当者研修（NII 会場第2回）

平成24年度

平成24年8月23日

機関リポジトリ新任担当者研修（筑波会場）

平成24年9月6日

機関リポジトリ新任担当者研修（岡山会場）

平成24年10月18日

機関リポジトリ新任担当者研修（NII 会場）

平成24年10月25日

大学共同利用機関におけるリポジトリに関する情報交換会（国立民族博物館）

平成24年12月13日

機関リポジトリ担当者のための著作権ワークショップ（大阪大学）

2.4 SCPJ データベース機能拡充

平成22年度

- (1) 複数編集アカウントの制御機能，編集履歴管理機能の実装
- (2) 編集・入力画面及び統計表示の改善
- (3) NII「学協会情報発信サービス」に従った研究分野の分類付与
- (4) 英語版ページの作成
- (5) Web フォームでのポリシー連絡機能追加

統計表示機能< <http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/stat>>



- 平成23年度
- (1) データ管理項目追加
 - (2) 表示インターフェース改修
 - (3) CiNii Books 連携機能追加

CiNii Books 連携機能

ISSN	02879702
NCID	ANR 0430253
言語	日本語
発行元/学協会	筑波大学図書・思想学会 ※この雑誌は、著作権ポリシーと同一のポリシーが適用されています
ポリシー	■ Blue (著作権のみ認めら)
出版形態の判別	出版形態は判別できません
公開範囲	著作権者のWebサイト 機関/ポリシー 研究資金助成機関のWebサイト 非営利電子論文アーカイブ
公開条件	権利表示を行うこと 出典表示を行うこと 利用は著作権の範囲内に限られる旨の表示を行うこと 事前に同意を行うこと 事前に報告を行うこと
データ更新日	2013/02/04

☒ CiNii Books上の書誌情報を表示にする

CiNii Books CiNii Books上の雑誌詳細情報

[1] 哲学・思想論文

タイトル	哲学・思想論文
出版社	筑波大学図書・思想学会
巻・号・頁	1号・0002・123
雑誌ID/NCID	ANR 0430253
ISSN	02879702

[編集委員] 筑波大学図書・思想学会 筑波大学図書・思想学会 筑波大学図書・思想学会 筑波大学図書・思想学会

平成24年度

- (1) データ管理項目追加
- (2) 学会名鑑 Web 連携機能の追加

3. 成果・波及効果

3.1 学協会著作権ポリシー策定の支援効果

SCPJ プロジェクトでは学協会に対して主に2つの関わり方を行っている。

ひとつは学協会に対しての著作権ポリシー調査であり、もうひとつは学協会または関連団体との会合による意見交換である。

学協会関係者とのインフォーマルな意見交換の機会を持ったことで、学会のOA方針の策定に関する具体的な知見を得ることができ、また同時に機関リポジトリ構築の実務についての情報を提供することができた。

学協会に対しての著作権ポリシー調査では、電子メール及び郵送により調査した結果、以下のように登録学協会数、ポリシーの不明率は推移してきた。

Gray 学会

第2期 CSI 委託事業終了時

68.8%（登録学協会総数2,162件）

平成22年度末

67.3%（登録学協会総数2,460件）

平成23年度末

59.2%（登録学協会総数2,489件）

平成24年度末

53.1%（登録学協会総数2,606件）

上に挙げたとおり、Gray 学会の割合が少なくなっている、それもコンスタントに同じくらいの割合で少なくなっている。この状況が示すものは学協会が機関リポジトリ、またはオープンアクセスを理解し、何らかの意思を示す必要性を感じたものではないだろうか。

こうした動きは、これまで持続的行なってきた SCPJ プロジェクトの活動が、オープ

ンアクセスや機関リポジトリについて学協会が知る契機となり、その重要性を認識させるものとして十分機能したものと推定される。

現在 Gray から Blue, Green の方針を明らかにする学協会が増加しており、一機関リポジトリ担当者として喜んでいる。しかしそれよりも重要なのは、学協会が機関リポジトリやオープンアクセスについての姿勢を明らかにしていることであろう。

たとえ White（リポジトリ掲載不可）の方針であったとしても、その方針を明らかにすることは重要である。つまりオープンアクセスを理解した上で、学協会にとっての最適な方策としてポリシーを明らかにされているからである。このことにより（無回答・検討中）の割合が低下し、すべての学協会のポリシーが明らかになることが理想であるが、実際のところさまざまな理由により難しい。

機関リポジトリの担当者としては出来る限りオープンアクセスの方針を打ち出してくれることを望むが、学協会の利益に反するポリシーを強制することはできない。機関リポジトリ掲載を許すことにより学協会の活動を阻害することも十分に考えられる。

現在もポリシー調査についての問合せが毎日のようにメールまたは電話で寄せられている。寄せられる質問、意見等を例示すると主なものは以下のとおりである。

- 1) 著作権ポリシーの回答はしたいが、現在回答できないので Gray（検討中）としてほしい。ほぼ方針は定まっている。
- 2) オープンアクセスとは何か。
- 3) 現在学協会の雑誌は特定サイトで無料で公開している。あらためて機関リポジトリで公開することに疑問がある。

などである。

1)は学協会内の意思統一を行う必要から、総会、理事会等を開いてそこで決定するため保留としておいてほしいという理由が多い。

総会で決定を行うタイミングは年に1回くらいであることも多いので、このような連絡があったときにはデータベースを Gray（検討中）としてデータを更新し、その後1年ほどしてから再度回答をもらって更新するという長期的な観点で対応している。

2) の疑問は3) ととも重なる部分があり、そもそも調査の目的が理解できないということから、オープンアクセスと機関リポジトリについての説明を求められるケースである。この場合はおよそ電話での問合せであることが多く、電子メールでは何度もやり取りしなければならないような内容をおよそ10分から20分程度会話することにより、調査内容をご理解いただくというかたちである。時には1時間近くにわたり電話する場合もある。

無料で学協会誌を公開しているケースについてはオープンアクセスという観点からは十分ではないかと質問を受ける場合もあるが、そのような際は研究成果公開を積極的に開示することが求められている現状において、機関リポジトリが果たす役割の重要性を強調している。大学の機関リポジトリを見ることにより、どのような研究者がいて、どういう研究がなされているかを示すことには大きな意義があると説明している。

電話で疑問が解消したのち、理事会等でのまま検討となる場合と、あらためて調査資料を送ってほしいと求められる場合とがある。

以上のように、調査を送ると多くの場合は時を経ずに反応があり、一時回答保留としたケースでも方針決定後に学協会側から自発的に情報提供が行われるケースも多く存在すること、先に挙げたように回答が調査期間を過ぎても継続的に連絡がある事実は、数年間にわたる調査が学協会に対して想像以上に浸透していることを示すものである。

3.2 SCPJ データベースの認知度向上と共有データベースの整備

現在は SCPJ データベースについて、機関リポジトリ担当者及び学協会担当者に対しては高い割合で認知されて来ていることが実感できる。また必要性についても理解されている。

SCPJ データベースでは特定の管理者以外でも編集できる機能を追加している。

現在のところ役割は2つに分けられている。学協会（society）とスタッフ（staff）である。

学協会アカウントでは、データベース中に存在する学協会ページと紐付けがされており、編集権限のある学協会とその発行雑誌ページのみが編集できる。対してスタッフ側は学協会に問合せを行った結果をプロジェクト連携機関に承諾されることなく更新することができる。

スタッフの権限は大きいものがあるため編集には注意が必要であるが、もし誤った操作をしてデータを更新した場合、管理者のアカウントによりバックアップからデータを戻すことも可能である。

2013年3月現在、管理者権限1、スタッフ権限15、学協会権限9が登録されているが、まだまだ共有データベースとしての認知度は低い。この状態を解消するためにデータベースの広報、説明に努めていきたい。

4. 課題及び課題解決へ向けての展望

4.1 学協会のオープンアクセスへの認知度向上

3.1で学協会のオープンアクセスへの認知度が向上していると言いたが、第3期の終わり（～2012年度）までに調査対象としていた学協会の約半数は著作権ポリシーが Gray のままであり、まだデータベースの中身として十分とはいえない。

しかしこれまで数年にわたって行なってきた

た悉皆調査は、徐々にそのオープンアクセスや機関リポジトリの理解を向上させてきたとはいえ、今後これだけのコストをかけ続けることは困難である。

悉皆調査のかたちではないメンテナンスモードへのシフトと、機関リポジトリに登録対象としたい雑誌を中心とした各機関リポジトリ担当者の直接のニーズと結びつくことにより、データの更新が充実するのではないかと期待している。その際、CSI 委託事業（領域2）「文献自動収集・登録ワークフローシステムの開発」プロジェクトで開発された著作権処理状態管理システムが有用ではないかと注目している。

4.2 機関リポジトリへの SCPJ データベースを利用した学術雑誌掲載論文の登載率向上

SCPJ のデータベースは認知されてきているため、学術雑誌論文を機関リポジトリに登載するにあたっては参照ツールのひとつとして利用されていると自負しているが、必ずしも自機関のリポジトリに学術雑誌掲載論文に登載する割合は高くない。紀要論文のコンテンツが機関リポジトリの大部分を形成していることも少なくない。これらのことから、SCPJ の利用率は必ずしも高くはないと考えられるため、今後オープンアクセスを機関リポジトリのコンテンツの軸に据えるような活動とともに、SCPJ 自体の利用率を向上させる。

5. 今後の計画

これまで SCPJ プロジェクトで行なってきた活動内容は主にデータベースの拡充に重点が置かれていた。悉皆調査の結果も踏まえて今後は方針を変更していく必要性を感じている。今後はデータベース拡充活動からオープンアクセスに関する広報及びコンテンツ増加促進運動にシフトして行きたいと考えてい

る。

5.1 データベースの整備・拡充の日常業務化

これまでの悉皆調査には拘らず、データベース方面はメンテナンスモードとし、日常的に随時更新していく。

5.2 SCPJ の活用によるコンテンツ充実のための広報活動

コンテンツ利用分析（ILL，論文データのアクセスログ解析）等を踏まえて、より利用の多い、必要性の高いコンテンツを中心としたリポジトリ登録を行うことにより、SCPJ データの価値を高める。そのための広報活動を行なっていく。

5.3 その他のオープンアクセスに関する情報収集・広報活動

オープンアクセスについての情報発信は海外を中心に盛んである。日本国内においてもオープンアクセスジャパンの活動が広く知られているが、SCPJ においても情報の発信源のひとつとしての役割を果たしていきたい。メーリングリスト，SNS などを含む広報も模索していく。

SCPJ 関係資料

広報資料等

2008年作成

Activity to manage copyright policies concerning open access and self-archiving (SCPJ project)

2007年作成

大学図書館から著作権ポリシー調査に関する学協会様へのお願い

講演資料・文献等

2012年

内島秀樹, 真中孝行. 「SCPJ プロジェクトの現在と展望: セルフアーカイビングによるオープンアクセス推進のために」専門図書館, No. 254, p. 14–18

2011年

大澤類里佐, 中山知士. 「SCPJ プロジェクトの活動と課題: 学協会著作権ポリシーデータベースの構築を中心に」大学図書館研究, No. 93, p. 36–41.

2009年

斎藤未夏. 「SCPJ プロジェクトの取組み—学協会の OA 方針の策定支援を目指して」 SPARC Japan News Letter No. 3, p. 1–4.
SAITO Mika, HIRATA Kan, MORI Ichiro, HOSOKAWA Maki, TSUKUI Yuko, NAKAYAMA Takahiro. “New SCPJ: Let’s develop an open access policy database together!” DRF International Conference 2009, Poster Session, 3–4 December, 2009, Tokyo Institute of Technology, Japan.
筑波大学, 千葉大学, 東京工業大学, 神戸大学. 「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト」平成20年度 CSI 委託事業報告交流会ポスター, 国立情報学研究所, 2009年7月9日～10日.

金藤伴成. 「集会報告: SPARC Digital Repositories Meeting 2008」情報管理, No. 51 Vol. 11, p. 833–836.

2008年

斎藤未夏. 「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト (SCPJ プロジェクト2)」学術雑誌電子化関連事業の連携・協力についての合同説明会, 学術総合センター／大阪科学技術センター, 2008年11月10日／12月5日.
TSUKUI Yuko & SAITO Mika. “Try Re-

vers! From Gray to Green” Berlin 6 Open Access Conference, Poster session, 11–13 November, 2008, Dusseldorf, Germany.

KINTO Tomonari. “SCPJ Project: Promoting Japanese scholarly societies’s understanding of open access” SPARC Digital Repositories Meeting2008, Innovation Fair, 17–18 November, 2008, Baltimore, USA.

平田完. 「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト」平成19年度 CSI 委託事業報告交流会口頭発表, 国立情報学研究所, 2008年6月13日.

筑波大学, 千葉大学, 東京工業大学, 神戸大学. 「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト」平成19年度 CSI 委託事業報告交流会ポスター, 国立情報学研究所, 2008年6月12日～13日.

富田健市, 斎藤未夏, 平田完. 「ごぞんじですか? SCPJ」専門図書館, No. 228, p. 45–49.

2007年

富田健市. 「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト」平成18年度 CSI 委託事業報告交流会口頭発表, ベルサール九段, 2007年7月3日.

「2012年8月30日付け SCPJ」の今後に関するアンケート調査結果」

8/30/12

SCPJの今後に関するアンケート

SCPJの今後に関するアンケート

国立情報学研究所のCS委託事業の一環として行なっている学協会著作権ポリシーデータベース（SCPJ）について、今後の継続性を含めた話し合いを国立情報学研究所と行うことになっています。

その際の参考とするために、DRF参加機関のリポジトリ担当者の皆さまに、SCPJについてのアンケートにお答えいただけますようお願いいたします。是非、率直な感想をお聞かせください。質問は3分程度で回答できます。

時間が少なくて申し訳ありませんが回答期限は8月30日（木）17時までとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

***必須**

もしよろしければ機関名をお聞かせください。

SCPJデータベース（<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>）をご存知ですか？ *

- ☐ はい
☐ いいえ

SCPJデータベースを使っている方に質問です。どれくらいの頻度で使っていますか？ *

- ☐ ほぼ毎日
☐ 週に2、3回
☐ 月に2、3回
☐ その他:

SCPJデータベースを使っていますか？ *

- ☐ はい
☐ いいえ

SCPJデータベースが使えなくなったとしたら困りますか？

- ☐ 困る
☐ あまり困らない

SCPJデータベースが使えなくなったとして「あまり困らない」と回答した方に質問です。どのような理由で困らないかお答えください。（複数回答可）

- ☐ あまり使っていない（使う必要がない）から
☐ SCPJのデータの信頼性に疑問があるので、最終的には個別に学協会に確認していることが多いから
☐ ポリシーが不明瞭（Gray）のものでも、直接学協会に問い合わせると使えたりするので二度手間

したくないから

☐ その他:

最後の質問です。今後、SCPJの活動が継続されることを希望しますか。 *

もし「希望するが事業（データベース）の中身次第」とお考えの方は[その他]を選択して具体的な要望をご記入ください。

- ☐ 強く希望する
- ☐ 特に希望しない（なくてもかまわない）
- ☐ その他:

Powered by [Google](#) ドキュメント

[不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [追加規約](#)

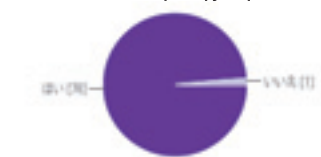
回答 **77** 件

概要 [詳細な回答を表示](#)

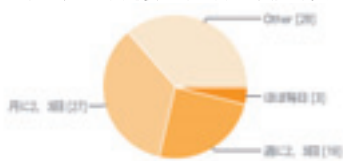
もしよろしければ機関名をお聞かせください。

筑波大学 小樽商科大学 関西学院大学図書館 筑波技術大学 鹿児島大学 一橋大学 長崎大学 山形大学農学部図書館 独立行政法人産業技術総合研究所 名城大学附属図書館 北陸先端科学技術大学院大学 附属図書館 国立民族学博物館 文化学園大学図書館 新潟国際情報大学 農林水産研究情報総合センター 東京医科大学 国際日本文化研究センター 静岡大学 大阪大学 淑徳大学附属図書館 名古屋工業大学 核融合科学研究所 立教大学図書館 札幌医科大学附属総合情報学 ...

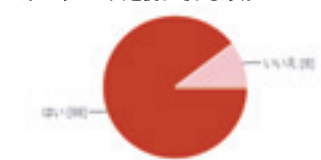
SCPJデータベース（<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>）をご存知ですか？



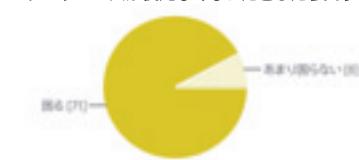
SCPJデータベースを使っている方に質問です。どれくらいの頻度で使っていますか？



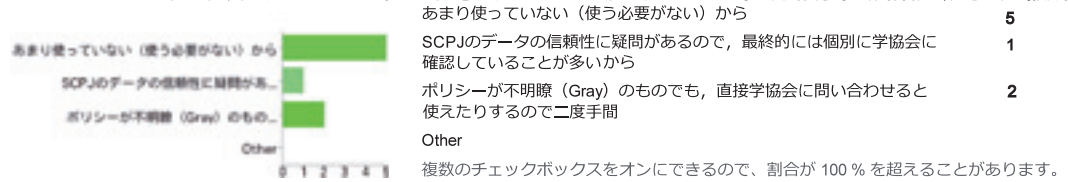
SCPJデータベースを使っていますか？



SCPJデータベースが使えなくなったとしたら困りますか？



SCPJデータベースが使えなくなったとして「あまり困らない」と回答した方に質問です。どのような理由で困らないかお答えください。（複数回答可）



最後の質問です。今後、SCPJの活動が継続されることを希望しますか。



1 日の回答数

